

## 2 「区役所職員の流動的な活用」

- 職場名

南区役所

- 課題（改善前の状況）

業務の繁忙期が各所管毎に異なっているにもかかわらず、その対応については、その所属長に委ねていた。

- ・取組内容

業務の平準化を目的に、全所属長の了解を得て、課をまたがる兼務発令を行うこととした。

区として、職員全員参加による協力体制を構築していくことを試みている。

- ・成果

繁忙期における超過勤務が増加の一途であったが、兼務発令を行うことにより超過勤務の縮減につながると共に職場間の交流が促進され、区内の融和にも貢献している。

## ひとことPR

区役所においては、年間をとおして繁忙期が続く所管もあるが、基本的には繁忙期が異なっている。繁忙期にある所管を応援するため、5月に2名、7月に3名、10月に1名の兼務発令を行った。今後においても2名の職員を兼務発令する予定であり、合計で8名の職員に対し兼務発令を行う予定である。ダイエットプランにおける結果を分析すると、派遣を受けた所管は超過勤務が減となっている。

### 2次審査委員からのコメント

- ・区役所だけでなく実施すれば職員の健康の維持、時間外勤務手当の縮減となる。
- ・理屈の上では思いつきやすいが、所属長間の理解と協力がなければ実現しない。どのように実現したのか、そのプロセスが気になる。他の区役所に展開できれば素晴らしい。
- ・行政では一般的には容易ではない兼務による業務の平準化を実行したことは特筆。
- ・調整の難しい改善策を見事に実践した好事例である。